

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0270201114 | | |
| 法人名 | バンドーウエルフェアグループ株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームバンドー弘前 | | |
| 所在地 | 〒036-8065 青森県弘前市西城北2丁目3-11 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 4年10月21日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 公益社団法人青森県老人福祉協会 | | |
| 所在地 | 030-0822 青森市中央3丁目30-20 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年12月6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく、落ち着き穏やかに、また、楽しく毎日を過ごせるようなグループホームを目指し、日々支援を行っています。受診や外出の際は、専門のドライバーとスタッフによる介助により、入居者様の安全に配慮しています。また、医療連携により定期的な看護師の訪問があり、健康管理を行っています。更に長い年月の経過において、体力の低下によりグループホームでの生活が困難になった場合は、法人の有料老人ホームの紹介も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

日々の業務の中で入居者のケアについて検討されており、個々の入居者に誠意のある対応に繋がっている。本部・管理者が働きやすい職場づくりを心掛けており、職員の意見も出しやすく、グループホーム内の風通しも良い。日々の記録についても独自の書式を用意しており適切に入居者の把握ができている。看護師が定期的な健康管理に来ているほか、専属のドライバーがおり柔軟に受診することができるため安心して利用することができる。併設事業所との連携もしっかりされており状態に変化が起きた時に対応できる様になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービスの役割等を念頭に理念を作り、ホールに掲示している。又、カンファレンス時に確認するなどして職員間で共有し、サービスの提供に努めている。 | 「地域の中で穏やかに暮らす」事業所理念を職員が業務中でも振り返ることができるようにホールはじめ事業所内数ヶ所に掲示されている。また、毎月開催されるカンファレンスや内部研修の中でも理念に沿った支援が行われているか確認が行われている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日頃より近隣の方への挨拶を励行している。新型コロナウイルス感染防止の為、運営推進会議は議事録を作成し、地域の委員へ郵送にて意見を募っている。通常は、町会長、民生委員、警察官の方に参加頂いている。又、中学生の福祉体験学習の受け入れをしている。 | コロナ禍前は、町内会主催の防災会議や合同で避難訓練の実施や近隣にある児童クラブが訪問し歌やダンスを披露してくれたり、事業所主催の夏祭りへ招待する等、積極的な交流が図られていた。現在は、イベントの自粛がある中、児童クラブへクリスマスプレゼントを渡すなど関係の継続に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 新型コロナウイルス感染防止の為機会がないが、通常は運営推進会議で認知症の方との関わり方や介護について説明を行う等、理解を深めてもらったり、中学生の福祉体験学習の受け入れをし、介護について学ぶ機会を作ったりしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2か月に1回開催している。新型コロナウイルス感染防止の為、現在職員のみで開催、議事録を作成し、運営推進会議委員へ郵送にて行事やサービスの報告を行い、意見を頂き、サービスの向上に活かしている。 | 2ヶ月に1回書面で開催されている。事業所の活動報告が主だが、会議内で、町内会より地域の高齢者の避難場所を依頼され提供するなど、地域の課題等も検討される場となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 新型コロナウイルス感染防止の為、現在事業所の実情やケアサービスの取り組み等は、主に運営推進会議の議事録を郵送し伝え、意見を頂いている。また、電話や書類提出時に相談したり、日常の連絡は本部を通して随時行っている。 | コロナに関する感染防止対策や制度に係る助言など、日常的に本部を窓口として連携が図られている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年に2回内部研修を行い、身体拘束の内容やその弊害について全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束等の適正化を図る為、3か月に1回、身体拘束ゼロ対策委員会の会議を開催している。 | 身体拘束ゼロ対策委員会が設置されており、指針に基づき内部研修の開催や日常の支援についても振り返りが行われている。内部研修受講後は、職員が研修内容について感想を提出するなど定着にも力をいれている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待の防止は、年間の研修計画にも組み入れ、全員で確認している。管理者は、日々の声掛け等観察し、防止に努めている。また、高齢者虐待の5種類について職員の目につく場所に掲示している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 年間の研修計画に組み入れ学習することで知識を得て、必要に応じて支援できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は、契約書、サービス内容等を説明し、希望を必ず伺い、家族の不安や疑問点が少なくなるようにしている。解約時は、説明・情報の提供を行い納得を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 現在は運営推進会議の議事録を郵送し意見を頂いたり、面会時に外部、家族の意見・要望を聞いている。その他、本部より要望受付に関する文書の送付を行っている。 | コロナ感染対策の為、通常の面会は自粛しているが、風除室内での窓越し面会や、電話やリモートで家族と話しができる機会を作っており、その際に意見や要望を聞き、カンファレンス等で職員間での共有が行われている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | カンファレンスや会議等で提案されたサービス、意見、要望はみんなで考え反映させていくよう取り組みしている。職員の意見等については、管理者やグループホーム事業部担当者が聞き取り、集約したものを代表者に伝達し、検討してもらっている。 | カンファレンスや会議の他にも、管理者自ら日常的に職員と話しやすい雰囲気を作り、意見を聞き取るようにしている。また、年2回スキルチェックを含めた面談を行い、年齢により働き方を変えたいなど、そこから出た意見も本部へ伝達し、対応してもらっている。物品の購入希望などは要望書を使用し購入している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々の能力や実績を把握し、職位の変更や昇給など、向上心を持って働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職場内研修を年間計画のもと、毎月行っている。スキルチェックシートを用い、自己評価を行うと共に、個々に目標をたてた上で業務にあたるなど、資質の向上に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナウイルス感染予防対策として、地域の認知症カフェへまだ参加していない。状況をみながら参加し交流を図りたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の困っている事や不安な事を受容・傾聴し、安心して頂けるようにしている。また、信頼関係が築けるよう努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の方にサービス内容を確認していただき、不安な事や要望等に耳を傾け話しやすいような雰囲気を作っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談時、本人、家族、病院、担当ケアマネジャーから情報収集し、現在の状況を把握し、安心出来るサービス提供に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活の中でコミュニケーションをとり、考えを聴いたり、出来る事は一緒に行う等、関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ホーム来訪時、現在の状況を報告している。必要時には家族の協力も得られるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナウイルス感染防止の為、知人の面会や外出は一部制限となっており、電話でのやり取りを支援している。 | 現在は自粛しているが、契約時に入居者の馴染みの人や場所等の聞き取りが行われていた。馴染みの美容室や墓参りへの外出支援が行われており、収束すれば再開していく方針である。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の性格や相性などみながら席を決めている。レクリエーション等通し、利用者同士がコミュニケーションとれるよう交流の場を作り、円滑な関わりがもてるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も相談に応じており、状況に応じて法人内で連携しながら相談・支援をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段の会話や表情、仕草などから意向をくみ取り対応している。困難な場合は家族から情報をいただき、その情報等から職員間で話し合いを行っている。 | 日々の支援の中で思いや意向を汲み取るよう心掛けており、知り得た意向や意見は、日々のミーティングの際に共有され食事のメニューや日々の支援に反映されている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者や家族より、生活歴や暮らし方・生活環境等の情報収集に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 1日の生活リズムを把握している。また、有する力を発揮出来る様に支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | モニタリングの見直しは3か月に1回実施している。本人、家族より要望や意向を確認する他、関係者より意見やアイデアをもらい、カンファレンスをし、一人ひとりに合った計画をチームで作成している。 | 独自の日常生活シートの書式を使用し、食事摂取状況や排拙状況等、日々の生活が詳細に記録されている。3ヶ月に1回モニタリングが行われており、カンファレンス内でモニタリング結果と介護計画の内容について共有が図られている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアの実践・結果、気づきや工夫等記録し、申し送り、情報を共有している。また、ケアプランの見直しにも活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 医療連携により、健康面のサポートをしている。また、受診や外出時の送迎支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 現在は新型コロナウイルス感染防止の為、地域資源を活用できないが、通常は運営推進会議を利用し、町会長・民生委員・宮園交番の協力で、安全に暮らし、楽しめるような支援をしたり、児童センターの子供達との、世代を超えた触れ合いを楽しんで頂いたりしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前から通院している病院に継続して通院できるように支援している。定期受診のほか状態の悪い時などには、かかりつけ医へ相談や情報交換し、受診し健康管理に努めている。専門医へ受診が必要な時は他の病院へ受診し適切な対応ができるようにしている。 | 入居前の面談の際にかかりつけ医の確認を行い、本人及び家族の希望に沿った病院を受診できる様にしている。受診の際は、専門のドライバーと事業所の職員が付き添い対応している。受診後は、家族への報告が行われている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員が気づいた事や情報より、医療連携の看護師に相談したり、適切な受診が出来るように支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時安心して治療出来るよう家族へのフォローをしている。新型コロナウイルス感染防止の為、面会できないので、連携室からの状況の把握に努め、早期退院出来るよう支援している。通常は適宜面会を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化については、入居時に本人、家族に説明し、グループホームの方針を理解して頂き、共有して支援している。 | 重度化した場合の対応についての指針に基づき、契約時に説明を行い確認が行われている。また、定期的な意向の確認も行われている。現在事業所では看取りは行っていないが、重度化した際は、系列の事業所を紹介するなどして繋げている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急時の対応マニュアルを掲示したり、急変時や事故発生時の対応について研修会を行い、いざという時に支援出来るようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に設備の点検をし、避難・誘導訓練の実施を年2回している。また、保存食の確保もあり、災害発生時の本部との協力体制もできている。以前の運営推進会議でも議題とされ、災害時の避難場所を確認するとともに、事業所が一時的な避難場所ともなっている。 | 夜間を想定した避難訓練を年2回行っており、その際に消火器を使用した消火訓練も行なっている。事業所2階を一時的な避難場所としており、地域の高齢者の避難場所にもなっている。3日間分の保存食も準備されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重し声掛けや対応を行っている。聴力が低下している方には、ジェスチャーを交えてさりげなく声掛けしている。また、介護従事者業務水準の指針を設け、内部研修を行っている。 | 内部研修にて人格を尊重した声掛けの仕方や、プライバシーに配慮した支援方法などを学び、日々の支援に活かしている。また、毎月開催されるカンファレンス内でも入居者への対応についても意見交換が行われている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が思いや希望を表し、その人らしい生活を送ることが出来るよう、また、会話や行動が出来るよう支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | おおよその一日の流れはあるが、その方のペースにあわせて支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ヘアスタイルや服装などは、その人らしくいられるよう支援している。コロナ禍に伴い、定期的な訪問理容は感染状況を踏まえながら依頼している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生日や行事の際に好みの物を提供し、楽しめるよう工夫している。食材の簡単な下ごしらえやメニューを一緒に考えたりしている。 | 日々の会話から把握した好みの物や、旬の物を取り入れたメニュー作りに努め食事を楽しめる工夫がなされている。また、下ごしらえ等の調理も一緒にいたり、自宅で使用していた箸や茶わんを持ち込んで頂いている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスを考えた献立になる様に食材の工夫をしている。食事量はその方により違うので、微調整している。水分量も一日を通じて確保できる様、支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、一人ひとりに合わせたケアを行い、口腔内の清潔を保つようになっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の排泄パターンを把握している。また、落ち着いた素振りや表情からも汲み取り、声掛けや付き添いし、トイレでの排泄を支援している。 | 排泄チェックシートを活用し個々の排泄パターンが把握され支援が行われている。排泄の記録は個々の日常生活シートにまとめられており職員間で共有が行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 適宜腹部マッサージをしている。また、軽い運動なども支援している。1日の水分量のチェックし、乳製品や好みの物を提供し、水分量の調整も行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 週2回入浴日を設け、希望に合わせた入浴介助をしている。入浴を拒む場合は、言葉がけやタイミングを見て、再度一人ひとりに合わせて支援している。 | 入浴日の定めはないが、週2回入浴して頂いており、入浴が好きな方は2回以上入られている。また、希望者には好みのシャンプーを使って頂いたり、入浴剤を使用するなど入浴を楽しむ工夫が行われている。入浴日以外は、足浴も行われている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣を把握し、その時々に応じて休んで頂けるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ファイルに調剤情報書を入れており、職員が把握している。また、薬の変更時は申し送り確認している。症状の変化については、日々の状態をみながら把握している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 嗜好品や楽しみごとなどを把握し、気分転換等出来るよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルス感染防止の為、外に出かける機会が減っているので、今後は希望した場所に外出したり、家族と外出出来る状況をみながら機会をつくる。 | コロナ禍前は、花見や道の駅での買物や外食、地域のお祭りへの参加等を行っており、自宅への外出や友人との外出等個別の外出対応も行っていた。現在は受診の際にドライブを兼ねるなどストレス軽減に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の了承と、利用者の力量に応じ支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があった時に、電話の支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室温、湿度は確認し1日1日記録している。ホールには誰でも休めるようソファを設置している。時間帯によっては、照明や採光で明るさ調整を行っている。壁面には季節ごとに飾り付けをしており、入居者と一緒に行っている。 | 事業所内は空調が完備されており、一年を通して快適に過ごせる様になっている。ベージュを基調とした落ち着いた雰囲気のホテルは広く、ソファもありゆっくりくつろげる環境となっている。また、季節を感じさせる作品を入居者と一緒で作成し、掲示している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファーや椅子をホールに配置し好きな場所で過ごせるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していた家具を持参している方もおり、利用者、家族と相談し、好みの居室空間となるようにしている。 | 契約時に説明がされ、テレビや写真、家具など馴染みの物を持ち込みして頂いて自分の部屋を作っている。部屋にはベッド、クローゼットが備え付けで用意されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下・浴室・トイレには手すりを設置し、安全で自立した生活が出来るよう支援している。 | | |